1.災害が起こった時、あなたはこう思っていませんか？

避　　難　　所

思い込み		現　実
避難所に行けばすぐに避難生活が出来る ①災害が起こったらすぐに避難所へ行く	➡	**避難所の安全が確認出来るまで開設されない** ①避難所開設まで3日から7日以上掛かる
生活必需品は何でも十分にある ①水、食料・日用品は十分ある ②何も持参しなくても全て避難所に行けばある	➡	**水、食料、生活必需品は僅かな備蓄のみ** ①各自が満足できるものは準備されていない ②水・食料・必需品など数日分を持参する
避難所では十分な個人のスペースがある ①プライベートが確保された生活ができる ②自宅と同じように冷暖房が完備している	➡	**一家族2m×2m適度の区画しかない** ①普通の体育館では30家族程度しか入れない ②プライベートの確保は出来ない居住スペース ③現状では空調設備のない避難所もある
各自避難所は指定されている ①避難所は事前に決めておかないといけない ②指定された避難所以外へは避難出来ない	➡	**『一応避難所は指定されている』である** ①中部地区は以下の3箇所が指定避難所 **「亀城小学校」「刈谷北高校」「刈谷高校」** ②指定避難所以外何処の避難所に行っても良い
避難所へ行けばすぐに救援物資が貰える ①災害後直ぐに救援物資を貰いに行く	➡	**避難所へ行っても避難所登録をしないと貰えない** ①救援物資の配布は避難所開設後となる ②必ず避難所で避難所登録を行う
地区の防災委員が何でも指導してやってくれる ①自分達は避難訓練同様指示に従って行動する ②みんなで一緒に避難所へ避難する	➡	**防災委員も被災者ですからあてには出来ない** ①「自分の身は自分で守る」を原則とする ②自分と家族の安全を第一に冷静に行動する

ならば災害にどう備えればいい？

※ 一週間程度生活出来る水・食料・日用品を備蓄し、自分と家族の安全を第一に考える！　➡ 自助

※ 普段からの近所付き合いを大切にし、災害時には声をかけあい協力して命を守る！　➡ 共助

※ 「災害用伝言ダイヤル」利用方法の確認と公衆電話の位置確認及び防災ラジオ等の準備！

2．刈谷中部地区の防災活動概要

避難所について

①中部地区の指定避難所は、**『亀城小学校』『刈谷北高等学校』『刈谷高等学校』**です。
②中部地区以外(県内外)の何処の避難所を利用しても構いません。(旅先でもOK)
③避難所の役割は、次の2つです。
　・1つめは、自宅及び近隣で生活できない場合の生活の場としての役割です。
　・2つめは、安否など各種情報交換及び救援物資の受領の場としての役割です。
　※いずれにしても **避難所への避難所登録が必要**です。
④避難所は学校や公共施設の場所は提供されますが、生活の面倒までは見てくれません。
　・行政も避難所の開設はしますが運営は、避難者自らが協力して行います。
　・「避難所運営委員会」などを組織して運営を行います。

災害の発生に備えて

①災害が発生しても
　・「被害を受けない・軽くする」ことは「災害が発生したらこうしよう」より大切!!
②被害を受けない・軽くするには、物を備える・知識や技術を備えることの両面があります。
　・「物とは」：家屋の堅牢化、家具の固定、避難路の安全確保などです。
　・「知識・技術とは」：災害情報等の知識、家族間の連絡方法の確認、シェイクアウト姿勢
　　：発災時の電気ガスの停止や復旧時の安全確保の手順の確認など
③被災した場合も同様に「物」「知識・技術」の両面があります。
　・「物とは」：救援物資が届くまでの水や食料などの備え及び災害保険の加入などです。
　・「知識・技術とは」：防災訓練や避難訓練を通してご近所の情報把握、連携や救急救命
　　措置の習得、避難所の利用及び救援物資受領手順の習得などです。

発災したら

判断1：第一に自分と家族を守る。	*・災害死者の9割が15分以内に死亡*
判断2：家族全員の無事を確認する。 ※救助が必要なら近所に救援を依頼する。	*・普段から家族で避難所を決めておく* *・災害ダイヤル・メールで連絡を取合*
判断3：近所の人の無事を確かめる。(要支援者など) ※救助が必要なら近所で協力して救助する。	*・普段から近所(班)の要支援者を把握* *・近所の人に救出される人は3/4ほど*
判断4：住居の安全を確かめる。 ※居住できれば在宅避難をする。 ※居住できなければ避難所へ避難する。 ※いずれの場合も避難所で**避難所登録票を提出**する。 ※救援体制が整うまでは、備蓄品で生活する。	*・避難所開設時には市職員に協力する* *・避難所開設の手順書→事前練習必要* *・避難所開設キット→事前練習必要* *・コロナの影響で避難所入所人数減少* **【在宅避難を第一に考える】**

家庭備蓄　調査（回答数：４４、極端な値は除いた　調査日：2022.11.28）

①調理必要：米、冷凍肉	**7.2**日	**18日分**
②簡単調理：レトルト	**3.7**日	
③調理不要：パン	**2.7**日	
④飲料水	**4.5**日	
⑤中水(飲めない水)	**1.7**日	
⑥調理燃料	**2.6**日	
⑦その他：ミルク・離乳食	**0.5**日	

➡

・食料は満足
・飲料水が不足、増量必要
・調理燃料不十分

【互近助で！】

※ローリングストックを心掛け救援物資が届く7日分を確保する。
※備蓄食料は、非常用食品でなく普段食べるもので十分だが、保冷方法に工夫を要する。
※課題：飲料水・中水(飲めない水)は、増量や代替できる方法を考える。